

公益財団法人第五福竜丸平和協会

2021(令和3)年度事業報告

2021年4月1日～2022年3月31日

2021(令和3)年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する対策を第五福竜丸展示館及び公益財団法人事業の基本的取り組みとして実施した。

2021年度は新型コロナウイルスによる臨時休館や開館時間の変更など実施しなかったが、年間でもっとも来館者・学校見学が多い5月、6月ごろの来館者数は大幅な減少となった。一方で、県を跨いだ移動が制限・自粛されたことにより、修学旅行や社会科見学の訪問先として第五福竜丸展示館を初めて訪れる都内の学校が増えるなどの変化もあった。

2020年度に計画されていたオリンピック・パラリンピックが1年遅れで開催されたことに伴い、大会期間に関わる7月7日～9月6日、展示館は臨時休館となった。同大会に向けた会場周辺の整備のため夢の島公園内の大部分が閉鎖されるなど、年度のはじめから3月上旬まで展示館を訪れる方々の動線にも大きな影響があり、対応を迫られた。一方「まん延防止等重点措置」が取られ、都内の動物園、植物館等が休館するなか、通常開館していることからこれまで来館していなかった学校、団体の利用もあった。

こうした状況のもとで、年間来館者は31329人とどまった。来館した小学校、中学校、高等学校、大学の合計は117校であった(通常来館者9～11万人、学校見学350～400校)。

1. 公益法人のかなめの事業

① 展示館業務

- ・当年度、展示館管理業務は定められた休館日を除き308日間実施した。オリンピック・パラリンピックの開催に伴い7月7日より9月6日まで54日間休館となった。
- ・来館者総数は31,329人(前年30,615人)、うち団体見学数は240団体、(うち小学校28校534人、中学校31校2,049人、高校23校502人、大学35校286人、その他の青少年団体7団体127人、一般団体116団体1,518人)、一般来館者は26,223人であった。東京方面への修学旅行を見送る自治体が多くあった。
- ・学校団体への展示解説は原則的に屋外とし、館内での対応は可能な限り短縮して行い、より理解が深まるよう見学のサポートを行った。学生のレポート課題、卒業論文、研究者へのレファレンスなどの対応をした。
- ・カラー版「展示館のしおり」を広報宣伝に活用した。動画の配信やSNS、ホームページ等を活用して企画展などを広報した。新聞・テレビ・ラジオの取材に協力した。
- ・海外からの渡航が制限されたためここ数年増えていた外国からの来館者は前年度に引き続きほとんど見られなかった。
- ・第五福竜丸展示館・財団などの取り組みを広報する「福竜丸だより」を6回発行した(各回1000部、賛助・ニュース購読会員、協力者・協力団体等に郵送。館内外で配布)。

② 新型コロナウイルス感染拡大に対する取り組み

主に以下の点に留意して業務を行った。

- ・職員の健康管理（検温、体調のチェック）とマスク着用を行った。
- ・入口に注意喚起の掲示を設置した。
- ・館内見学ルートを一方通行とし、西側入り口にスタッフが常駐してマスク着用、手指消毒を促した。
- ・「密集しないでください」というポスターを館内6か所に設置した。
- ・トイレに液体石鹸、ペーパータオル、ごみ箱を設置し、手指洗浄のための啓蒙ポスターを掲示した。
- ・階段手すり、トイレドア、鍵、便座周辺を適宜次亜塩素酸水で消毒した。
- ・受付カウンターにアクリル板設置した。
- ・接触を要する展示物の中止、長時間滞在を避けるためベンチの撤去、資料閲覧コーナー中止を行った。
- ・団体見学には展示館前広場などで短時間解説し、館内は自由見学にするなどの対応をとった。

③ 企画展・展示替等の取り組み

■ 第1回展示替え 5月20日

常設展示のうち、第五福竜丸の年表などのリニューアルを行った。

■ 第2回展示替え 10月1日～3月21日

企画展「被ばくの島マーシャルのサンゴと人と海と」

マーシャル諸島における核実験被害と気候変動問題をテーマとし、フォトジャーナリストの島田興生氏（協会専門委員）とプロダイバー・環境活動家の武本匡弘氏の協力のもとに展示をおこなった。

- ・解説バナー8点 ・写真パネル展示15点
- ・マーシャル諸島の若者による絵画作品展示(スライドショー含む)計34点
- ・映像展示“Anointed”（詩人・環境活動家キャシー・ジェットニル・キジナーの作品。核被害と気候危機を訴えるパフォーマンス映像）1点
- ・関連企画として、島田興生氏と武本匡弘氏によるオンライン・ギャラリートークを2回おこない、映画「故郷を追われて」（坂田雅子監督）の上映及びトークイベントを開催した。3・1ビキニ記念の集い（次項参照）も企画展の関連として開催した。

■ 特別企画「くじらのような大きな船の音楽会」

10月9日、10日、2020年以來延期されていたコンサートを開催。未就学児、小学生40名をはじめ、両日で100名が参加。音楽朗読劇「くじらのこえなみのこえ」が第五福竜丸展示館で初演された。2回にわたりオンライン配信（有料）もおこな

った。ピアノ・崔善愛、チェロ・三宅進、出演・辻輝猛、斉藤とも子、脚本・山谷典子。

■ 3・1 ビキニ記念のつどい

2月19日に、企画展「被ばくの島マーシャルのサンゴと人と海と」関連企画として島田興生氏と武本匡弘氏による対談イベントを開催した。半世紀にわたりマーシャル諸島の核実験被害を取材し続けてきた島田興生氏から、核実験で故郷を追われた人々の被害や暮らし、そして気候変動を逃れ米国に移住したマーシャル人コミュニティのコロナ禍における様子などが報告され、武本匡弘氏からは、乱獲や気候変動の影響による海の深刻な現状やそのことがマーシャル諸島の将来にもたらしている問題などについて報告された。

催しは第五福竜丸館内の仮設ステージで開催され、約50名が参加したほか、トークの様子は動画共有サイトYouTubeで公開した。

④ 第五福竜丸・ビキニ事件、世界の核被害を伝える取り組み

現物資料・展示用パネルの貸し出しに加え、第五福竜丸の被ばくを描いた映画「西から昇った太陽」の普及に取り組み、各地で上映会が企画された。学芸員が非常勤講師を勤める大学（中央大学、立教大学、恵泉女学園大学）での講義のほか、ゲストスピーカーとしての講義、市民団体主催の学習会での講演等で第五福竜丸、ビキニ事件について伝える機会をもった。

【資料貸出・パネル展等】

| | | | |
|--------|---|--------|---------------|
| 7月3日 | ～ | 7月31日 | 久留米原水協 |
| 7月20日 | ～ | 9月1日 | 浦安市 |
| 7月24日 | ～ | 8月1日 | 東大阪市 |
| 8月1日 | ～ | 8月10日 | 大宮原爆と人間展実行委員会 |
| 8月3日 | ～ | 8月5日 | 浜松市戦争体験を聞く会 |
| 8月4日 | ～ | 8月10日 | 府中市 |
| 8月5日 | ～ | 8月26日 | 寒川町 |
| 12月24日 | ～ | 12月26日 | さいたま地区労働組合協議会 |
| 2月22日 | ～ | 2月27日 | 小金井原水協 |
| 2月23日 | ～ | 2月28日 | 帯広原水協 |

以上、展示10か所

【映画「西から昇った太陽」貸出】

| | |
|-------|---------------|
| 5月15日 | 静岡県浜松市（個人） |
| 6月4日 | 東村山市立東村山第三中学校 |

6月5日 浜松母親大会
6月26日 静岡県裾野市（個人）
7月17日 榛南平和の会
8月9日 牧之原市
2月7日 豊川市南部中学校

以上、上映8か所

【学芸員講話・講演・執筆等】

5月10日、17日、24日、31日 明治学院大学「広島・長崎講座」

6月26日 専修大学

6月26日 和歌山県平和委員会

7月5日 早稲田大学

7月3日 港区平和青年団

7月17日 川崎市幸区原水協

8月5日 戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭

8月26日 大阪ヘルスコープ

10月18日 神奈川学園

10月2日 じんけん SCHOLA

11月6日 常泉寺・原爆の灯をともし会

11月16日 横浜国立大学

11月19日 三輪田学園

11月24日 田園調布学園

11月25日 神奈川県民医連

11月26日 青山学院大学

11月27日 三重県修学旅行協会研修集会

11月28日 恵泉女学園大学

12月14日 中央大学

1月21日 世田谷区立上祖師谷中学校

2月3日 大田区立貝塚中学校

2月12日 福島の子ととともに平塚

2月12日 3・1ビキニデー北海道集会

3月13日 神奈川県歴史教育者協議会

3月17日 ペンシルベニア大学

3月17日 都立鷺宮高校

3月22日 町田市立南大谷中学校

3月28日 平塚YWCA

- ・ J P通信(Vol. 230) 「ビキニ水爆実験被害者大石又七さんの願い」
- ・ けんせつ(第2364号) 「大石又七さんが遺したもの」
- ・ 婦人時報(第782号) 「桜の満開を前に、福竜丸の証言者大石又七さん逝去」
- ・ 毎日新聞(5月17日) 「悼む」大石又七さん

- ・ 子どもの本棚(No. 634)「つなぐーわたし、ラストアンカーじゃないもん」
- ・ 女性展望(No. 715) 「バトンを受け継いで第五福竜丸展示館」
- ・ 学習の友(No. 815)
「ゴジラの咆哮と大石さんの涙―体験者なき時代に聞こえる声は」
- ・ 月刊平和運動(2022年3月号)
「第五福竜丸元乗組員大石又七さんの軌跡をたどる核なき未来への道を歩いて」
- ・ 立教大学社会学部「応用社会学研究」(No. 64)
「太平洋核実験による被害と補償の考え方―外交文書を中心とした整理」

船体・エンジン等の保存のための検討作業

2021年度は、新型コロナウイルス感染症に対する配慮から、前年度に続き第五福竜丸船体等保存検討委員会の開催を見送った。前年度に行った船体内部のカビ・害虫調査の際に東京文化財研究所からの助言に従い、カビの発生を抑制する目的で船体内部の清掃を12月18日に行った。

エンジンの保存対策として8月31日に学生ボランティアの協力のもと、エンジンの清掃及びタンニン酸とエタノールの混合溶液の塗布を行なった。

⑤ 資料収集の取組み

- ❖ 第五福竜丸元乗組員・大石又七氏の遺族より、昨年度に続き関連資料一式の提供を受けた。資料の詳細調査を兼ねて、聞き取りをしながら整理をすすめ目録を作成中である。
- ❖ はやぶさ丸時代の舵輪が寄贈され、来歴を調査した。

⑥ その他

【特記事項】

- 5月1日 宮城沖で最大震度5強（江東区震度3）の地震発生。船体に異常なし
- 6月10日 開館45年ボランティア座談会
- 7月7日 オリンピック・パラリンピックのため休館（～9月6日）
- 8月29日 板橋区の青年グループがマグロ塚の周りを清掃
- 8月31日 大学の平和サークルメンバーがエンジンの清掃と薬剤塗布
- 9月3日 展示館ボランティアが館内や備品類の清掃（その1）
- 9月4日 展示館ボランティアが館内や備品類の清掃（その2）
- 9月23日 第41回久保山忌句会
- 10月9日 くじらのような大きな船の音楽会（第一夜）
- 10月10日 くじらのような大きな船の音楽会（第二夜）
- 10月25日 赤十字国際委員会などによる核兵器と気候変動問題に関するパネルトークの収録が行われる
- 11月6日 島田興生・企画展ギャラリートーク（ライブ配信）

- 11月21日 映画「故郷を追われて」上映と坂田雅子監督のトークイベント開催
- 12月3日 世界核被害者フォーラム（主催ピースボート）開催。展示館から中継。
- 12月18日 時事通信が第五福竜丸船体をドローンで撮影
ボランティアによる船体「すすはらい」を行う
- 1月19日 武本匡弘・企画展ギャラリートーク（録画をオンライン配信）
- 2月19日 3・1ビキニ記念のつどい
- 3月12日 みうらピースデーライブ配信
- 3月16日 福島県沖を震源とする最大震度6強の地震の影響で、江東区内3時間停電。館内に大きな被害なし
- 3月30日 欧州のテレビ局 ARTE、取材・撮影

【対外活動】

- 5月6日 国民平和行進出発行事で安田和也事務局長挨拶
- 7月4日 日本山妙法寺平和行脚出発式見学会で安田和也事務局長挨拶
- 9月23日 久保山忌句会で安田和也事務局長、山村茂雄顧問挨拶
- 10月3日 原爆犠牲者追悼のつどい（主催・東京都）に安田事務局長出席
- 3月1日 久保山愛吉墓前祭（焼津市）で山本義彦理事挨拶

【取材協力・資料提供】

- ・ 実教出版株式会社「2023（令和5）年度用高等学校用検定教科書『精選日本史探究』」、「同デジタル教科書」
- ・ ABEMA（テレビ朝日報道局）大石又七さん追悼番組
- ・ Diversion Book
“Blown to Hell : America’s Deadly Betrayal of the Marshall Islanders”
- ・ ポプラ社『総合百科事典ポプラディア第三版』
- ・ NHKETV 特集「白い灰の記憶～大石又七の歩んだ道」
- ・ 昭和女子大学光葉博物館特別展「被爆者の足跡―被団協関連文書の歴史的研究から―」
- ・ NHK「あの人に会いたい＜大石又七＞」
- ・ 東京法令出版株式会社『歴史総合資料集』
- ・ 成山堂書店『戦後日本の海運と船員のあゆみ』
- ・ BS-TBS「関口宏のもう一度！近現代史」
- ・ 東京書籍『高校指導者用デジタルブック新鮮歴史総合』
- ・ 立命館大学国際平和ミュージアム 平和友の会平和講話のDVD
- ・ ARTE “Invitation au voyage”
- ・ NHK コズミックフロント「地球科学者の先駆け猿橋勝子」
- ・ カタログハウス『通販生活』2022年春号

【主な報道】

- 4月17日 朝日新聞「惜別大石又七さん」

- 5月14日 北海道新聞「哀惜大石又七さん」
- 5月26日～ 共同配信「惜別メモリアル大石又七さん」（高知新聞ほか）
- 7月19日 東京新聞「ローマ教皇が哀悼 第五福竜丸大石さん核廃絶訴え死去」
- 8月5日 埼玉新聞「第五福竜丸模型を展示 核廃絶訴えた大石さん作」
- 8月7日 東京新聞「忘れないため私は語る学芸員今夏も継承活動」
- 8月8日 カトリック新聞「第五福竜丸乗組員大石さんの逝去に教皇が哀悼の意」
- 8月18日 東京新聞「反核の思い私がつなぐ第五福竜丸乗組員と共に歩んだ 20年」
- 10月16日 しんぶん赤旗「音楽朗読劇『くじらのこえなみのこえ』第五福竜丸の悲劇描く」
- 12月1日 川崎医療生協「被ばくの島マーシャルのサンゴと人と海と」
- 1月3日 しんぶん赤旗「核に平和奪われた島々フォトジャーナリスト島田興生」
- 2月1日 聖教新聞「マーシャル諸島核実験が変える世界の未来フォトジャーナリスト島田興生」
- 2月20日 共同通信配信「核と気候変動被害ビキニ周辺深刻水爆実験 68年で集会」（高知新聞ほか）
- 2月25日 ふえみん「第五福竜丸を発信する市田真理さん」
- 2月28日 共同通信配信「平和へ思いつなぐ横浜の女子高第五福竜丸・故大石又七さんと交流 25年」（静岡新聞ほか）
- 3月7日 朝日新聞・静岡版「第五福竜丸若者が伝え継ぐ焼津出身の大学生杉本さん」
- 3月9日 朝日新聞・千葉版「第五福竜丸船員のカビ医学真菌学の転機」『通販生活』2022年春号「シリーズ戦争を忘れない」 梯久美子

【ボランティアの会】

- 6月10日 開館記念日ボランティアの会座談会
- 7月7日 福竜丸だより発送
- 8月12日 学校・旅行社に向けてDM 発送
- 9月3日 福竜丸だより発送
- 11月14日 福竜丸だより発送
- 1月7日 総会・学習会畠山澄子さん講演
- 3月8日 福竜丸だより発送

【行政庁との連絡等】

- ・ 委託業務定期報告毎月初め、東部公園緑地事務所管理課
- ・ 新木場連絡会隔月開催（コロナ対策として昨年度～2021年未まで開催せず。2022年1月より再開）

2. その他の事業

- ① 書籍・ミュージアムグッズの頒布
- ② 出版事業
 - ・ 福竜丸 BOOK『マーシャル諸島に生きて核実験の島、さんご礁の人びと』（文・写真島田興生）700 部発行
 - ・ 久保山忌句会 40 周年記念俳句集『未来へ第五福竜丸とともに』600 部発行
- ③ 「福竜丸だより」アーカイブ化
「福竜丸だより」のバックナンバー（創刊号～400 号）を第五福竜丸展示館 web サイト上で公開した。

3. 法人の管理運営

当年度に以下の通り諸会議を開催した。

- ・ 2021 年 4 月 29 日 理事会对面（展示館資料室）・オンライン併用
- ・ 2021 年 5 月 15 日 評議委員会対面（学士会館）・オンライン併用
- ・ 2021 年 5 月 15 日 理事会对面（学士会館）・オンライン併用
- ・ 2021 年 8 月 28 日 臨時理事会对面（展示館資料室）・オンライン併用
（定款一部変更、臨時評議委員会の開催決定）
- ・ 2021 年 9 月 17 日 臨時評議委員会書面評決
（定款一部変更を承認）
- ・ 2021 年 12 月 5 日 臨時理事会对面（展示館資料室）・オンライン併用
（山本代表理事退任により、奥山新代表理事就任）
- ・ 2022 年 3 月 13 日 理事会对面（展示館資料室）・オンライン併用

賛助会員は以下のとおりである

| | 2021 年 4 月 1 日 | 2022 年 3 月 31 日 |
|----------|----------------|-----------------|
| 賛助会員（個人） | 288 | 283 |
| 賛助会員（団体） | 54 | 53 |
| ニュース購読会員 | 96 | 105 |